

授業科目	ビジネス英語【演習】		開講時期	前期
担当教員	野中 誠司		単位	2
授業の目的と概要	<p>企業活動がグローバル化した結果、世界の人々とコミュニケーションを行うための共通手段として、英語の重要性がますます高まっている。この授業では、ビジネスの現場で求められる基本的な英語力を身につけることを第1目的とする。また、ビジネス分野における知識・技能を活用して、コミュニケーション・スキル、論理的思考力、問題解決能力など社会生活に必要な基礎的技能的習得および向上を第2目的とする。</p> <p>教科書には必要最低限のことしか書かれていないので、補足説明を行う。そのための板書を毎回行うので、専用ノートを必ず準備しておくこと。また、教科書の内容に準拠した音声ファイルを出版社の指定サイトからダウンロードして、予習・復習に活用すること。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスの現場に必要な単語や表現を理解し、それらを口頭と文章で再生することができる。</li> <li>2. ビジネスに関連した英文を音声で聞いたり、精読や多読によって、その内容が理解できる。</li> <li>3. ビジネス分野における知識・技能を、自己にふさわしい将来設計（キャリアプランニング）に活用できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は、企業で海外関連業務（マーケティング、通訳翻訳等）に従事した実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Telephone 1：電話に対応する		予習pp. 1-5, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第2回 Business Email：Eメールを読む		予習pp. 6-10, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第3回 Telephone 2：正確な情報を得る		予習pp. 11-14, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第4回 Business Letter：ビジネスレターを読む		予習pp. 16-20, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第5回 At the Reception Desk：受付の英語		予習pp. 21-25, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第6回 Corporate Websites：ウェブサイトを閲覧する		予習pp. 26-30, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第7回 Company Profile：会社について説明する		予習pp. 31-35, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第8回 Product Advertisements：新製品広告を読み解く, 中間試験実施		予習pp. 36-40, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第9回 Your Job：自分の仕事を説明する		予習pp. 41-45, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第10回 Product Specifications：製品の仕様書を確認する		予習pp. 46-50, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第11回 Business Plans：将来の展望について話す		予習pp. 51-55, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第12回 Operating Instructions：操作マニュアルを理解する		予習pp. 56-60, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第13回 Talking about the News：時事的会話を楽しむ		予習pp. 61-65, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第14回 Safety Signs：標識の英語に慣れる		予習pp. 76-80, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第15回 まとめ		これまでの単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%：毎回の課題を翌週の授業開始前までに提出してください。			
小テスト等	30%：今日の英語クイズという小テストに翌週の授業開始前までに回答してください。			
成果発表	なし			
受講態度他	20%：フォーラムやチャットへの投稿など、主体的かつ積極的に参加している点を評価します。毎回の授業へのアクセスが6回なかった時点で受講放棄とみなし、名簿から氏名を削除します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開講日から教科書を使用するので、事前に購入しておくか、必要な箇所をコピーするなどして授業に出席すること。教科書なしで授業に参加した場合は、最終評価から減点などのペナルティーを科す。第2回以降の授業にもこのルールを適用する。</li> <li>2. 名簿順に座席を指定するので、指定された席にすわること。座席の要望があれば、開講日に受けつけるので申し出ること。</li> <li>3. 辞書（スマホやタブレット端末は不可）も必ず持参すること。辞書なしでの受講は不可。</li> <li>4. 病気、急引などやむをえない理由で欠席した場合は、客観的な証明書類を後日必ず提出すること。提出がない場合、無断欠席</li> </ol>			
教科書	Tomoko Tsujimoto et al., "Getting Global!," (Kinseido, 2015)			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと。	メールアドレス		

授業科目	日本語教育演習Ⅰ【演習】	開講時期	前期
担当教員	鷹野 恵・高田 恭子	単 位	2
授業の目的と概要	「外国語としての日本語」を教えるための実際的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを知り、できるようになることを目指します。実践力は、初級と中級の模擬授業および教壇実習を通して身につけます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教師としての実務をひと通り学び、主に、初級レベルと中級レベルの授業をひととおりこなせるようになる。</li> <li>・教案と授業で使用する教具を作成することができる。</li> <li>・教案では学習者の発話を引き出す、教師のふるまいができるようになる。</li> <li>・交換留学生との交流をとおり、日本語学習状況を観察、把握ができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>日 (4) -①-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は日本語教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	オリエンテーション：初級授業策定の復習	割り当てられた課の項目分析（文法学習、授業の構想）	
第2回	初級の学習目標（言語知識・言語行動）と教室活動	担当箇所の教案の作成	
第3回	初級模擬授業（1）：動詞のます形／やりもらい表現	項目分析・見学シート	
第4回	中級の教材分析	割り当てられた課の項目分析（文法学習、授業の構想）	
第5回	中級の学習目標（言語知識・言語行動）と教室活動	担当箇所の教案の作成	
第6回	中級教壇実習（1）：「わたしの町」導入・精読	項目分析・見学シート	
第7回	中級教壇実習（2）：「わたしの町」文型と語彙・発展活動	項目分析・見学シート	
第8回	中級教壇実習（3）：「この日に食べなきゃ意味がない！」導入・精読	項目分析・見学シート	
第9回	中級教壇実習（4）：「この日に食べなきゃ意味がない！」文型と語彙・発展活動	項目分析・見学シート	
第10回	初級模擬授業（2）：い・な形容詞／位置詞	項目分析・見学シート	
第11回	初級模擬授業（3）：て形＋ください／て形＋もいいですか	項目分析・見学シート	
第12回	初級模擬授業（4）：ない形＋ければなりません／辞書形＋ことができます	項目分析・見学シート	
第13回	初級模擬授業（5）：た形＋ことがあります	項目分析・見学シート	
第14回	交換留学生との会話パートナー	レポート：交換留学生の日本語学習状況の観察	
第15回	まとめ	ポートフォリオ整理（教案、教具、評価シート、省察シート、ふりかえり）	
成績評価	割 合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30％ 詳細は最初の授業で指示します。		
小テスト等	なし		
成果発表	50％ 教案および模擬授業・教壇実習を評価します。		
受講態度他	20％ 学習活動への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。</li> <li>・授業見学シートには良い点、改善点をしっかり記入すること。</li> <li>・授業実践は計2回、初級模擬授業（学習者は本科目履修生）と中級教壇実習（学習者は交換留学生）とがあります。</li> <li>・事前チェックを希望する学生は、10日前までに筑女ネットにアップロードしてください。授業日直前のチェックは受け付けません。アドバイスがあった場合は、それを反映した内容で臨んでください。</li> </ul>		
教科書	『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊 第2版』（スリーエーネットワーク） 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期 第2版』（スリーエーネットワーク）		
指定図書	なし		
参考図書	『初級を教える人のための文法ハンドブック』白川博之監修（スリーエーネットワーク） 『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子（スリーエーネットワーク） 『日本語文型辞典』グループウェア（くろしお出版）		
オフィスアワー	火曜 4 講時	メールアドレス	

<b>授業科目</b>	日本語教育演習Ⅱ【演習】		<b>開講時期</b>	後期
<b>担当教員</b>	鷹野 恵・高田 恭子		<b>単位</b>	2
<b>授業の目的と概要</b>	<p>「外国語としての日本語」を教えるための実際的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらよいかを知り、できるようになることを目指します。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点が置かれます。また、即戦力としての人材を育成するため、現場に即した授業の展開のしかたを念頭に、授業を進めます。実践力は、中級の教壇実習を通じて身につけます。</p>			
<b>到達目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教師としての実務をひと通り学び、主に、中級・上級レベルの授業をひととおりこなせるようになる。</li> <li>・初級ですでに習得した文法や語彙と、新たに導入する中級・上級レベルのそれとがどのように異なるかを分析し、学習者に授業のなかで提示できる。</li> <li>・授業では、学習者の発話を引き出す教師のふるまいができるようになる。</li> <li>・交換留学生との交流を通し、日本語学習者を観察、把握ができるようになる。</li> </ul>			
<b>この授業が目的としているDPや関連する科目など</b>	<p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。  日 (4) -①-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は日本語教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
<b>授業計画</b>	<b>授業内容</b>		<b>授業外学修など</b>	
第1回	イントロダクション		割り当てられた課の項目分析 (文法学習、授業の構想)、教案作成	
第2回	中級教壇実習 (1) 「音楽と音の効果」 導入・精読		項目分析・見学シート	
第3回	中級教壇実習 (2) 「音楽と音の効果」 文型と語彙・発展活動		項目分析・見学シート	
第4回	教壇実習 (1) ・ (2) のふりかえり、授業分析		授業担当者：省察シート、見学者：見学シート	
第5回	中級教壇実習 (3) 「いい数字・悪い数字」 導入・精読		項目分析・見学シート	
第6回	中級教壇実習 (4) 「いい数字・悪い数字」 文型と語彙・発展活動		項目分析・見学シート	
第7回	教壇実習 (3) ・ (4) のふりかえり、授業分析		授業担当者：省察シート、見学者：見学シート	
第8回	中級教壇実習 (5) 「「おもしろい」日本」 導入・精読		項目分析・見学シート	
第9回	中級教壇実習 (6) 「「おもしろい」日本」 文型と語彙・発展活動		項目分析・見学シート	
第10回	教壇実習 (5) ・ (6) のふりかえり、授業分析		授業担当者：省察シート、見学者：見学シート	
第11回	中級教壇実習 (7) 「くしゃみ」 導入・精読		項目分析・見学シート	
第12回	交換留学生との会話パートナー		レポート：交換留学生の日本語学習状況の観察	
第13回	中級教壇実習 (8) 「くしゃみ」 文型と語彙・発展活動		項目分析・見学シート	
第14回	教壇実習 (7) ・ (8) のふりかえり、授業分析		授業担当者：省察シート、見学者：見学シート	
第15回	まとめ		ポートフォリオ整理 (教案、教具、評価シート、省察シート、ふりかえり)	
<b>成績評価</b>	<b>割合 (%)、種類・評価基準など</b>			
定期試験	なし			
レポート	30% 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 教案および模擬授業を評価します。			
受講態度他	20% 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。  授業見学シートには良い点、改善点をしっかり記入すること。  授業実践は2回 (学習者は交換留学生) です。  事前チェックを希望する学生は、10日前までに筑女ネットにアップロードしてください。授業日直前のチェックは受け付けません。アドバイスがあった場合は、それを反映した内容で臨んでください。</p>			
<b>教科書</b>	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 5 6 中級前期 第2版』スリーエーネットワーク			
<b>指定図書</b>	なし			
<b>参考図書</b>	グループジャマシイ『日本語文型辞典』くろしお出版			
<b>オフィスアワー</b>	火曜 5 講時	<b>メールアドレス</b>		

授業科目	法律学(国際法を含む)【講義】		開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	1. 法とは何か、法の基礎知識を学び、私たちの生活と法律のかかわりについて考える。 2. 「六法」といわれる法律と労働法、社会保障法について概要を理解する。 3. 国際法について概観する。			
到達目標	1. 憲法、行政法、民法、商法、刑法、訴訟法、労働法、社会保障法の趣旨目的について説明できる。 2. 国際法で登場する専門用語のうち基礎的なものについて正しく説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア(3)-②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 心(1)-① 自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 心(3)-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初(3)-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼(2)-④ 社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 幼(2)-⑤ 人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 幼(3)-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会において法が果たしている役割	配付資料を見直して復習する。		
第2回	裁判による権利実現・被害回復とは	配付資料を見直して復習する。		
第3回	刑法	配付資料を見直して復習する。		
第4回	刑事訴訟法	配付資料を見直して復習する。		
第5回	民法①(財産法)	配付資料を見直して復習する。		
第6回	民法②(家族法)	配付資料を見直して復習する。		
第7回	商法	配付資料を見直して復習する。		
第8回	憲法	配付資料を見直して復習する。		
第9回	労働法	配付資料を見直して復習する。		
第10回	社会保障法	配付資料を見直して復習する。		
第11回	国際法(国際法はどのような形で存在するか)	配付資料を見直して復習する。		
第12回	国際法(国際紛争の解決)	配付資料を見直して復習する。		
第13回	国際法(国家管轄権)	配付資料を見直して復習する。		
第14回	国際法(国際人権法)	配付資料を見直して復習する。		
第15回	国際法(戦争と国際法)	配付資料を見直して復習する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	あり(100%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	なし(資料を配付します)			
指定図書	①谷口貴都・松原哲編著『基礎からわかる法学[第2版]』成文堂、②渡部茂己・喜多義人編『国際法[第2版]』弘文堂			
参考図書	講義の際に指示します。			
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス		